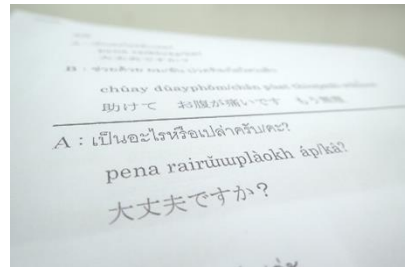


シーナカリンウィロート大学 人文学部

タイ王国バンコクに本部を置く1949年創立の国立大学。シリントーン王女も学んだ由緒ある総合大学。

都心に立地するため交通の便がよく、また多くの日本人が住む治安の良い地域にある。

人文学部には、心理学・図書館情報学・宗教哲学・西洋語・タイと東洋語・言語学の6つの学科があり、2012年度の交流協定の締結以降、学生の相互派遣が盛んに行われている。



... 留学した先輩達の体験談から ...

学校生活① (授業について)

- 先生が講義している最中でも、分からないことがあればすぐに質問することが出来る積極参加型の授業。
- 授業コマが1コマ180分なので、集中するペース配分が重要。慣れるまでに、1ヶ月かかった。
- 1日2コマ受けるのが限界。多くの分野を学ぼうとして沢山授業を取ることが不可能なのでよく選んで授業を履修していた。

日常生活

- 寮は留学生が入居することが出来ない。そのため、自身で探したコンドミニアムに住んだ。24時間の日系スーパーマーケットが併設されていたり、セキュリティも万全であったため快適に過ごすことが出来ました。
- 契約関係はほとんどタイ語。タイ語と日本語を話せるタイ人と一緒に契約するか、留学先の国際課のスタッフに同行してもらった方が○。

学校生活② (学風・学生について)

- 学生は社会的で親切。みんな1年生のときに寮生活を経験しているためか、学生同士がとても親密。
- タイ全土から多くの人々が訪れ、多様性溢れる校風。
- 勉強量は非常に多いが、学生はONとOFFの切り替えが出来ている。
- 学生はみんな気さくに話しかけてくれる。

アドバイス! ■日本のことをもっと知っておくべき。国内の旅行をしたり、ボランティア活動をしたりと、外国人からどんな質問が来ても答えられるようにしておいたほうがよい。■話す英語と書く英語の能力は全く別物。スピーキング能力を見るテストも受けたほうが良いと思う。■現地用語を勉強し、現地の地理的、歴史的知識を得ること。現地のことについても、どう思うかと聞かれることも多くある。■タイ語の能力、特に長い文章の読み書き能力を留学前にできるだけ向上させておくべき。■英語を学ぶことに重点をおいていたが、後に現地文化を学ぶためにはタイ語の習得が必須だということを感じた。

どうしてここを選んだの?

- 第二外国語でタイ語を選択したことをきっかけに、タイへの関心が高まり、タイの学生と共に学びたい気持ちが膨らんだ。
- 自ら何かを追求しないと何も得ることが出来ないような厳しい環境を敢えて選び、急成長しているタイに行けば身をもって体感できるのではないかと考えた。
- バンコクを中心にあり、タイの先進の雰囲気を感じられることがたいへん魅力的に思えたから。
- 行ったことがない国だったから。馴染みがない国で不安もあったが、その分得られるものも大きいと思っていた。

留学を考えている人へ

留学を漠然としたいなとだけ思っている方は、軸をもって留学するべきだと思います。なぜ、留学をしたいのかということをお掘りしていくとおのずと軸の答えが明確になると思います。留学の動機は大したことではなくても、自分が本気でやり遂げたいと思うのであれば、その軸は留学中でも揺るがないと思います。留学に行くか迷っている方は、ほとんど1度きりの大学生活をこの先どのようにしていきたいのか、少し考えてみたらいいのではないかと思います。自分らしい大学生活を過ごすうえで、留学に挑戦してみたいと思ったら、その理由を考えトライしてみるべきです。

(2018年度留学：男性)